

初めての取り組み～オープンスクール～

4名の中学生が参加しました

7月18日(土)・19日(日)、オープンスクールを実施しました。この行事は、今年度から「生徒募集推進協議会」を立ち上げ生徒募集に取り組んでいる一環として、中学生や保護者に本校の特色ある教育活動や天売島について理解を深めてもらう目的で開催されました。

島内外からの参加中学生4名は、カリキュラム等を説明する学校説明、特色ある教育活動を体験する水産実習体験(ウニ缶詰作り)等に加えて、観光バスや漁船栄丸に乗って海鳥を観察し、本校での活動や天売島の自然環境を体験しました。水産実習体験には、本校生徒が仕事の合間を縫って駆けつけてくれました。参加した中学生にマンツーマンで指導し



ながら、和やかな雰囲気の中でウニ缶詰を作っていたのが印象的でした。

両日とも晴天に恵まれ、予定の活動を全て終えた参加中学生からは「先輩方が温かく、校舎も温もりがあってとてもいい学校だと思った。」等の感想を聞くことができました。本校と天売島のことを少しは理解してもらうことができましたようです。今回、オープンスクールを実施する上で、地域の方々の多大なご協力をいただき、本当にありがとうございました。



生活体験発表大会校内選考会

2名が地区大会へ



7月9日(木)、生活体験発表大会校内選考会を実施しました。全国の定時制・通信制高校で毎年行われるもので、仕事をしながらの高校生活で得たことを発表する、天売高校ではおなじみの行事です。島の方々にもお越しいただきました。各自の作文の題を筆字で書き、生徒たちは自分たちの将来への思いに熱弁をふるいました。全校生徒4名のうち、3年生2名が9月に滝川で行われる空知地区大会への進出を決めました。2人とも2度目の出場の

地区大会に向けて、さらに良い発表ができるように練習中です。

地区大会出場者：3年萬谷佳帆(よろずや かほ)『自分なりに』

3年坂本 翔(さかもと かける)『勇往邁進(ゆうおうまいしん)』



水産実習「ウニ缶詰」

～今年も美味しいウニ缶詰できました～



7月4日(土)と6日(月)の2日間、水産実習第3弾としてウニ缶詰づくりが行われました。材料のウニは、当日の朝天売島で水揚げされた新鮮なキタムラサキウニです。

作業はまず、マキリを使って殻を割った後、ウニむき専用の細長いスプーン状の器具を用いて丁寧に身を取り出し、付着している内臓やトゲなどをきれいに除去します。ウニむきはすべて手作業で進められるので、指先がウニの色素で紫色に染まります。

次に、取り出した身を崩れないように缶に肉詰めし、製缶機で巻き締め密封した後、ボイラー・レトルト設備で加圧殺菌します。身崩れ防止のための添加物は一切使用しないので、採れたてのような自然な味わいを楽しむことができるのが特徴です。

3年生の萬谷佳帆さんは実習後、「今年も美味しいウニ缶詰を作ることができました。学校祭などで多くの人に食べてもらえたらと思います。」と感想を綴っていました。

製造した缶詰は9月の学校祭で島民に試食してもらう予定です。



今年度1回目の球技大会 ～熱戦が繰り広げられました～

夏休み前最後の行事である「第1回球技大会」が7月23日に開催されました。前回の体育行事である「島民大運動会」の結果を踏まえて力の差が小さくなるようにチーム分けをしましたが、試行錯誤の末に島民大運動会のチームとまったく同じチームで行うこととしました。白熱のレースが繰り広げられた島民大運動会の天高ガチリレーと同様に、今回の「第1回球技大会」でも熱戦を期待できるようにという思いのチーム分けでした。

前半のバレーボールでは、校長率いるAチームが2セット合計5点差で勝利し、続く後半のバスケットボールでもAチームが4クォーター合計5点差で勝利。総合でAチームの勝利となりました。

「島民大運動会に引き続き負けはしましたが、最後の最後まで一生懸命できてとても楽しかったです。」という生徒会長坂本翔くんの競技後の挨拶をもって、生徒4人教員10人で行った最高に白熱した「第1回球技大会」が幕を閉じました。



算数数学教室

「楽しかった」「びっくりした！」

7月12日(土)、本校数学教諭の清水健志先生が小学生3名、中学生1名、大人2名の計6名を対象に算数数学教室を行いました。13時から15時までの約2時間、長寿のお祝いと算数、数ピラミッド、速算術(インド式計算)の一部など、学校の授業では触れられることの少ないと思われる内容を題材として講義を行いました。

また、図で考えて規則性を発見するような数学的な活動をしたり、中学入試に出るような文章題を考えたり、昨年度より一歩踏み込んだ内容にも触れました。

感想から「面白かったのでまたやってほしい」「今までに習ったものがつかえて楽しかった」「とてもおもしろかったし、びっくりした」という声が聞かれ、とても有意義な時間となりました。

秋にも実施する予定ですので、子どもだけでなく、大人の方も一緒に頭の体操をしましょう。



読書週間

～読書のよさを再認識～

7月13日(月)～7月17日(金)の5日間、読書週間を実施しました。生徒も教員も自分で本を選び、授業前の20分間読書をしました。日頃から本を読まない人も、この読書週間を通じて本に親しんでもらうのが目的です。

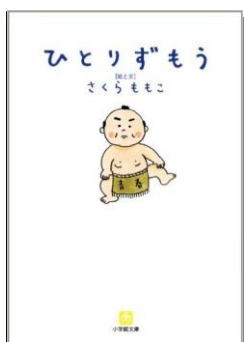
生徒は思い思いに本を選び、20分間集中して読書を楽しんでいました。また、読書週間終了後には、それぞれに読んだ本の感想を書いてもらいました。

5日間で本を読み切れなかった生徒は自主的に続きを読んでおり、読書の楽しさを知るきっかけになったのではないのでしょうか。



図書の紹介

鈴木 祥平 (英語教諭)



書名：『ひとりずもう』 著者：さくらももこ

私がお勧めする図書は、ちびまる子ちゃんで有名なさくらももこが書いたエッセイ『ひとりずもう』です。

このエッセイは作者が自身の青春時代について書いたもので、女子高生活や初恋、将来の夢など様々なエピソードが綴られています。作者がどのような青春時代を過ごして漫画家さくらももことなり、ちびまる子ちゃんが生まれたか、その過程が見所です。

ユーモアたっぷりの文章スタイルと少し斜めから物事を見る哲学的な洞察力が読者をさくらももこワールドへと引き込みます。ぜひ手に取って読んでみてください。